

十九



從三位勲二等男爵澁澤榮一敘勲

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治四十四年八月二十二日

内閣總理大臣公爵桂太郎

内閣

三四二

勲 四二九

明治四十四年八月廿一日

内閣

内閣總理大臣

不

賞勲局總裁



從三位勲二等男爵澁澤榮一敘勲、件
別紙、通議定候條此段允裁ヲ仰ク

内閣

明治三十四年八月十七日

賞勳局總裁

書記官

可

議定官

否

叙勲議案

從三位勲二等男爵 滋澤榮一

右ハ叙勲二等以來戰後、經營上各種商工業、發達ニ努メ日夜東西ニ奔走シ實ニ本邦實業界、

賞勳局

牛耳ヲ執リ商工業、為メ渾身ノ力ヲ效シ曾テ倦色アルコトナシ就中日米兩國民ノ意思疏通ヲ企圖シ貿易、増進ニ盡力シ相互實業團、来往ト為リ國交上及通商上ニ至大ノ關係ヲ及ホシ雙方ノ誤解ヲ釋キ貿易ヲ増進セシメタル等其勲勞顯著ナリト認ム依テ農商務外務兩大臣、申牒ヲ勘査シ勲等ヲ擬議スル左ノ如シ

叙勲一等授瑞寶章

從三位勲二等男爵澁澤榮一

右ハ本邦經濟界ニ於ケル功勞卓絶夙ニ實業界
ノ泰斗トシテ景仰セラル殊ニ明治初年ニ當リ金融
業ノ創設經營ニ模範ヲ示シ其ノ信用ノ厚キ凡
ソ本邦創始ノ商工業一トシテ其ノ力ニ由ラサルモノナレト
云フモ敢シ過言ニアラス斯ノ如ク内商工業ノ發展外
海外貿易ノ擴張ニ對シ功績顯著ナルヲ以テ明
治三十三年五月男爵ヲ授ケラレ日露戰時中、功
勞ニ依リ勲二等ニ敘セラル爾來益々奮勵戰後、

農商務省

經營上各種商工業ノ發達ニ努メ日夜東西ニ奔走
シ席溫ルニ違アラズ就中海外貿易ノ最國運ノ發展
ニ關スル所多キヲ以テ殊ニ盡カスル所アリ近年米國ニ於
テ一部ノ人士政治上ノ關係ヨリ蜚語流言ヲ放チ排日
ノ思想ヲ鼓吹シ動モスレハ意思ノ疏通ヲ缺キ甚シ
キハ開戰論者ヲ出スニ至リ國交上ノ不利ハ勿論
西國貿易ノ減退スヘキ現象ルヲ以テ深ク之ヲ憂ヘ
タリ故ヲ以テ本邦商業會議所ヲ米國太平洋沿
岸ノ商業會議所ニ向ツテ實業家ノ來遊ヲ促シ明
治四十一年十月其實業團ノ來朝スルヤ款待最モ

勤ノ盛ニ日米間貿易ノ増進ヲ説キ大ニ彼等ヲ感
動セシメ我國ノ真意始メテ米國國民一般ニ傳ル
所トナリ越ヘテ翌四十二年ニ至リ彼等ヨリ我カ誠意ニ
對スル答禮トシテ渡米ノ招待ヲ受クルヤ四十餘名ノ
有力家渡米實業團ヲ組織シ同人ノ位置名望
ノ高キヨリ其ノ團長ニ推サレ奮然老軀ヲ提ケ同年
秋冬三ヶ月ニ亙リ殆ント寢食ヲ忘レ私費ヲ投シ五
十三市一萬一千哩ノ大旅行ヲナシ到ル處官民ノ厚
情優待ヲ受ケタリ其間團長トシテ苦心慘憺只
管意思ノ疏通ニカメ貿易ノ増進ヲ説キ通商發

農商務省

達上貢獻スル所大ナリシハ實ニ朝野ノ認ムル所ナリ抑
日米ノ間ハ通商上最モ重大ノ關係ヲ有シ其ノ貿易
額ハ我國對外貿易上ノ首位ヲ占メ殊ニ本邦輸
出品ノ約三割ハ全ク米國ヲ以テ顧客トナセリ比年
貿易不振ノ境ニ在リシモ漸ク回復増進ノ傾向ヲ示
セル兩國實業家ノ訪問事情疏通ノ關係ニ據ルモノ
アルハ勿論從テ同人指導幹旋ノ功ニ歸スヘキモノ多
シ要スルニ實業家ノ渡米ハ豫想以上ノ成績ヲ收
メ良好ノ影響ヲ國交上ニ及ホシタルハ蓋シ特記スヘ
キ事蹟ト云ハサルヘカラス而シテ海外實業家ノ我

國ニ來遊スルヤ常ニ歡ニテ之ヲ迎ヘ款待至ラサルナシ
苟モ意思ノ疏通ヲ圖リ貿易ノ關係ヲ密接ナラシ
ム事ノ如キ必先ツ同人ニ謀ツテ始メテ行ハル斯ノ如ク
夙ニ本邦實業界ノ牛耳ヲ執リ其ノ一言一行經
濟界ノ盛衰ニ多大ノ關係ヲ有スル特殊ノ位置名
望ヲ以四十年間一日ノ如ク内外商工業ノ發達ニ渾
身ノ力ヲ致シ曾テ倦色ナシ而モ老テ益々壯ミシテ其
ノ功勞ト成績洵ニ顯著ナリトス依テ特ニ勲一等ニ
陞叙シ瑞寶章ヲ賜ハリ候様仕度是レ獨リ本
人ノ光榮ニ止マラス實業界一般多大ノ獎勵トナル

農商務省

ヘク別紙履歷書ヲ具シ此段及申牒候也

明治四十四年八月四日

農商務大臣男爵大浦兼武

外務大臣侯爵小村壽太郎

内閣總理大臣公爵桂太郎殿

原本不明瞭

Handwritten text in vertical columns, likely a historical document or manuscript. The text is written in a cursive style, possibly a form of Japanese calligraphy or a historical script. The columns are arranged in a grid-like fashion across the page.

原本不明瞭

319

原本不明瞭

320